

日本産のヤチグモ属 (*Coelotes*) 総説

西 川 喜 朗*

Japanese Spiders of the Genus

Coelotes (Araneae : Agelenidae)

Yoshiaki NISHIKAWA

タナグモ科 (Agelenidae) のヤチグモ属 (*Coelotes*) は主として地表生活者で、リター層、石の下、崖地、土の割れ目などに生息しており、夏期には成体が少ないことなどから、その他のクモに比べて比較的目的にくいクモである。またその生態的特徴から、局地的な分布をする種や、種内変異の著しい種もあり、今後の研究対象として非常に興味深いグループのひとつであると思われる。

現在わが国には16種の *Coelotes* が記録されているが、かつて別種に同定されたり、原記載の雌雄が別種であったり (L. KOCH, 1878), 記載と図が入れかわっていたりした (BÖSENBERG und STRAND, 1906)。その後、八木沼 (1957, 1958 a, 1960, 1961, 1968, 1972 b, 1972 c, 1973 a) により、それらのほとんどが検討され整理されはしたものの、BÖSENBERG und STRAND (1906)、斎藤 (1941)、八木沼 (1960, 1968) らによりまとめられた後にも新種が、八木沼 (1967, 1969, 1972 a)、YAMAGUCHI and YAGINUMA (1971)、西川 (1972, 1973) および有田 (1974) らにより計8種が記載された。このように、一般に同定困難な本属の記載、図、解説などが複雑多岐におよぶうえに、一般に入手困難な文献もあるので、今後の混乱を防ぎ分類や分布を整理する意味で、ここに全種の部分図を示して今後の参考としたい。

ここで *Coelotes* としたものは、八木沼 (1970) によるものと、その後 *Coelotes* 属として新種記載されたものについて用いた。

本報告では、できるかぎり多くの記載と照合し、分類学上重要な特徴とされる生殖器の図をかかげることをおもな目的とした。属および種の検討や説明は最小限にとどめ、今後改めて検討したい。また筆者ならびに八木沼氏の手元には、なお多くの新種候補種があるが、これらについてはいずれ明らかにされるであろう。本属の研究は相当古くから八木沼氏によってなされてきたが、最近その一部を筆者が引きついだ。

本報告にあたり、研究を委ねられ、かつ貴重な標本や文献の使用を許され、さらに終始ご指導をいただいた本学院大学の八木沼健夫教授に厚くお礼申し上げる。

Coelotes の特徴

眼は8眼二列。上顎に外顎がある。中窩は明らかである。歩脚転節にえぐりがなく、3爪。明瞭な間疣はなく、その位置に普通数本から約10本の毛がある。前疣ははなれ、後疣は2節からなり一般に前疣より長い。♀♂二型は著しくなく、♀より♂の腹部はやや小さく、♂の歩脚はやや長い。以上はタナグモ科の一般的特徴でもある。

さらに *Coelotes* のおもな特徴をつぎに記す。

* 追手門学院大学生物学研究室 (大阪・茨木) . Biological Laboratory, Otomon Gakuin University, Ibaraki, Osaka. [追手門学院大学文学部紀要, 第8号, pp. 174—182, 1974]

前列眼および後列眼は前曲または端直。額は前中眼の直径より広く、広い種ではその直径の約2倍ある。中眼域は長さは幅とほぼ同じ。眼域は頭部の幅の $\frac{1}{2}$ ～ $\frac{3}{5}$ 。下唇は長さ>幅。後牙堤に2～4歯あり、2歯の種はほとんどその数に変異がないが、3歯また4歯のものにはその数に変異がみられる。後疣の末節の長さは基部とほぼ同じかやや長い。♀の *epigynum* (外雌器) の上方には普通1対の突起がある。♂の *palp* (触肢) の膝・脛両節には種特有の突起がある。頭胸部は赤褐色のものが多く、頭部はほぼ全面が毛でおおわれ色は背甲よりやや濃い。上顎は非常に濃く、下顎と下唇は頭部と同色またはやや濃色。腹部は茶褐色～灰褐色で、その背面に山型斑のあるものが多い。歩脚の腿節あるいは脛節に輪紋のある種とない種がある。成体は秋から春にかけてよく見かけられる。

現在わが国から記録のある16種の *Coelotes* の種名、和名、分布はつぎのごとくである。種の配列および記述は八木沼 (1970) によったが、その後の知見も加えた。

<i>Coelotes antri</i> (KOMATSU, 1961)	ホラズミヤチグモ	Hn. S. K.
<i>C. curtus</i> (BÖSENBERG et STRAND, 1906)	クルマヤチグモ	K.?
<i>C. exitialis</i> L. KOCH, 1878 (= <i>Tegenaria muscicapa</i> BÖSENBERG et Strand, 1906)	ヤチグモ	Hn. S. K. (Kr.)
<i>C. grandivulva</i> YAGINUMA, 1969	オオアナヤチグモ	Ts.
<i>C. hamamurai</i> YAGINUMA, 1967	フタバヤチグモ	Hn.
<i>C. ignotus</i> (BÖSENBERG et STRAND, 1906) (= <i>Agelena ignota</i> BÖSENBERG et STRAND, 1906)	カタチガイヤチグモ	K.?
<i>C. insidiosus</i> L. KOCH, 1878 (= <i>C. plancyi</i> SIMON, 1880; <i>Coras insidiosus</i> : BÖSENBERG et STRAND, 1906)	シモフリヤチグモ	Hk. Hn. S. K. To. (Kr.)
<i>C. luctuosus</i> L. KOCH, 1878 (= <i>C. japonica</i> KARSCH, 1879; <i>Coras luctuosus</i> : BÖSENBERG et STRAND, 1906)	メガネヤチグモ	Hk. Hn. S. K. (Kr. C.)
<i>C. modestus</i> SIMON, 1880 (= <i>Tegenaria corasides</i> BÖSENBERG et STRAND, 1906)	ヤマヤチグモ	Hk. Hn. S. K. (C.)
<i>C. micado</i> STRAND, 1907 (= <i>C. moellendorffi</i> : BÖSENBERG et STRAND, 1906; <i>C. spinivulva</i> : LEHTINEN, 1967; YAGINUMA, 1970 ; <i>C. micado</i> STRAND, 1907, 1909, 1926)	ミカドヤチグモ	Hn. K.
<i>C. uenoi</i> YAMAGUCHI et YAGINUMA, 1971	ウエノヤチグモ	Gotô Is.
<i>C. kitazawai</i> YAGINUMA, 1972	アズマヤチグモ	Hn.
<i>C. yaginumai</i> NISHIKAWA, 1972	カミガタヤチグモ	Hn. S.
<i>C. decolor</i> NISHIKAWA, 1973	ウスイロヤチグモ	Hn. S.
<i>C. personatus</i> NISHIKAWA, 1973	カメンヤチグモ	Hn. S.
<i>C. inabaensis</i> ARITA, 1974	イナバヤチグモ	Hn.

各種のおもな特徴

種の配列はできるだけ近縁種をまとめた。種の特徴は最小限にとどめ、くわしくはそれぞれ原記載を参照されたい。分布は所検標本と文献やリストにより、地方別あるいは都道府県名や島名を適宜しるした。

1. ヤチグモ *Coelotes exitialis* L. KOCH, 1878 (Figs. 1—2)

原記載 (L. KOCH, 1878), 齊藤 (1941) および八木沼 (1960, 1968) の名はつぎのホラズミヤチグモの同であることがわかった (八木沼, 1973)。

体長9—15mm. 後牙堤に4歯. 生体ではほとんど黒色に見え, 本属中最も濃い. 頭胸部は濃い赤褐色で放射状に毛が生えている. 腹部は濃い灰褐色でやや淡色の山型斑が数対あるが見えにくい個体が多い. 歩脚に輪紋はない. ♀の epigynum の突起や♂の palp の embolic conductor に変異がある. 岐阜県で近縁の別種がとれている. 分布: 関東・中部・近畿・中国・四国・九州. Fig. 1 の♂は岡山県蒜山産. Fig. 2 の♀は鳥取県大山産.

2. ホラズミヤチグモ *Coelotes antri* (KOMATSU, 1961) (Figs. 3—4)

KOMATSU (1961) により *Speleocicurina antri* として♀が記載されたが, 八木沼の図鑑 (1960) ではミカドヤチグモ *C. micado* とされていた種で, また八木沼 (1960, 1968) の♂は未記載のアリタヤチグモ (仮称) の♂である. 次種のミカドヤチグモと混同されていたが, 八木沼 (1973) により明らかにされた.

体長7—15mm. 後牙堤に4歯, 頭胸部は赤褐色で放射溝は暗褐色で放射状に毛が生えている. 腹部に数対の山型斑があり, 下面にも不規則斑があり淡褐色のふちどりがある. 歩脚に輪紋がある. ♀の epigynum の下部に1対の濃赤褐色のアズキ様の内部生殖器がよく見える. 肉眼では背面の斑紋はつぎの3, 4, 5, 7, 9の各種とほとんど同様である. 後疣の末節は基節より長い. 分布: 関東・中部・近畿・中国・四国・九州. Figs. 3—4の♂♀は京都市岩倉産.

3. ミカドヤチグモ *Coelotes micado* STRAND, 1907 (Figs. 5—7)

BÖSENBERG und STRAND (1906) と斎藤 (1941) がミカドヤチグモ *C. moellendorffi* (KARSCH) としたものは, その一部が真のミカドヤチグモで他の一部が *C. moellendorffi* である. 八木沼の図鑑 (1960) にミカドヤチグモ *C. micado* とされていたものはホラズミヤチグモである. このように前種のホラズミヤチグモとの混同は八木沼 (1972) により明らかにされた.

体長8.5—11.5mm. 後牙堤に4歯. 色彩は前種とほとんど同様だがやや暗色で背甲のほぼ全面に毛が生えている. 歩脚に輪紋がある. 次種のアズマヤチグモと似るが, ♀ epigynum の突起が本種の方が太い. 採集記録は少ない. 分布: 三重・和歌山・山口・福岡・大分. Figs. 5—6の♂は山口県秋芳町こうもり穴産. Fig. 7の♀は佐賀県産 (タイプ標本).

4. アズマヤチグモ *Coelotes kitazawai* YAGINUMA, 1972 (Figs. 8—9)

体長8—9mm. 後牙堤歯に3歯. 色彩はホラズミヤチグモに似るがやや淡色. 背甲のほぼ全面に毛が生えている. 腹部下面に斑紋なく黄褐色. 歩脚に輪紋がある. ♂の palp もホラズミヤチグモに似るが図のごとく radix (根部) が大きく, 膝部背面の先端がえぐられているので区別がつく. 後疣の末節は基部より短かい. 本種もかつてミカドヤチグモとされたことがある. 関東地方付近に近似の別種がとれている. 分布: 東北・関東・中部. Figs. 8—9の♂♀は山梨県上九一色村本栖第1風穴産 (タイプ標本).

5. カミガタヤチグモ *Coelotes yaginumai* NISHIKAWA, 1972 (Figs. 10—11)

体長7—10mm. 後牙堤に4歯. 色彩はホラズミヤチグモとほとんど同じ. 背甲のほぼ全面は毛が生えている. 腹部下面に斑紋はほとんどない. 歩脚に輪紋がある. 中部地方以西に近縁の別種あるいは別亜種とすべきものが多い. 分布: 愛知・岐阜・近畿・四国. Figs. 10—11の♂♀は大阪府茨木市安威産 (タイプ標本).

6. イナバヤチグモ *Coelotes inabaensis* ARITA, 1974 (Figs. 12—14)

体長♀約5mm, ♂約4.5mm. 後牙堤に4歯. 頭胸部は黄褐色. 腹部灰褐色で不規則な斑紋があり, 下面には斑紋はない. 分布: 鳥取県八頭郡若桜町. Figs. 12—14の♂♀は鳥取県若桜町産 (タイプ標本).

7. メガネヤチグモ *Coelotes luctuosus* L. KOCH, 1878 (Figs. 15—16)

BÖSENBERG und STRAND (1906) や斎藤 (1941) の図が次のヤマヤチグモ (= ヤマタナグモ *Tegenaria corasides*, シモリタナグモ, カキネタナグモ) と入れかわっていたために, 八木沼 (1957, 1960) により明らかにされるまで, 本種にヤマヤチグモの種名を用いた報文が多かった. 次種との図のとりちがいは, 八木沼 (1957, 1960, 1968) により訂正され, さらに明解な検討と解説がなされた (八木沼, 1972b).

体長 11—15mm. 後牙堤に 3 歯. 色彩はホラズミヤチグモに似るが、腹部下面は黄褐色で斑紋はないか、不規則な弱い斑紋がある. 背甲のほぼ全面に毛が生えている. 歩脚に輪紋がある. ♀ の *epigynum* の細い突起は毛におおわれて見えにくい. 灯ろうや樹皮目のすきまなどにいるのはほとんど本種である. 分布: 北海道・本州・四国・九州. Fig. 15 の♂は大阪府吹田市産. Fig. 16 の♀は京都府乙訓郡長岡町産.

8. ヤマヤチグモ *Coelotes modestus* SIMON, 1880 (Figs. 17—19)

前種と図の入れちがいのため、本種を図のみで同定し、イホグモ *Coras luctuosus* の種名を誤って用いた報文が多かったが、前種の項でのべたごとく、八木沼 (1957, 1960, 1968, 1972b) により訂正し、検討され明らかになった.

また本種は従来、ヤマタナグモ *Tegenaria corasides* BÖSENBERG et STRAND と同定されていた (八木沼, 1957, 1960, 1963) が、LEHTINEN (1967) および八木沼 (1970, 1972b) により上記学名が用いられるようになったが、属ならびに種については今後検討を要するようである.

体長 9—13mm. 後牙堤に 3 歯. 色彩は明るい黄茶褐色で、腹部には不規則な弱い斑紋がある. 背甲のほぼ全面に毛が生えている. 腹部下面の正中部にわずかに斑紋がある. 歩脚に輪紋がない. 近似種に数種あるようで、同定に注意を要する (西川, Atypus³³). 分布: 北海道・本州・四国・九州. Figs. 17—19 の♂♀は山口県屋代島産.

9. シモフリヤチグモ *Coelotes insidiosus* L. KOCH, 1878 (Figs. 20—22)

従来、シモフリイオグモ *Coras insidiosus* の種名が多く用いられてきたが、LEHTINEN (1967) および八木沼 (1970) により原記載の属にもとされた.

体長 8—12mm. 後牙堤に 3 歯. 前中眼最大. 色彩はホラズミヤチグモとほとんど同様であるが、腹部下面まで不規則な斑紋がつづいており背面より淡い. 背甲には放射状に毛が生えている. ♂ の *palp* の跗節 (杯葉) の外側 (後方) が大きくえぐられており、*embolic conductor* が細長くとがっている. 近似種に数種あり、同定に注意を要する (西川, Atypus³³). 分布: 北海道・本州・四国・九州. Figs. 20—22 の♂♀は兵庫県姫路市上砥堀産.

10. ウエノヤチグモ *Coelotes uenoi* YAMAGUCHI et YAGINUMA, 1971. (Figs. 29—30)

体長約 11mm. 後牙堤に 3 歯. 頭胸部は赤褐色. 腹部は灰色で中央に縦斑があり、その両側に 2 対の斑紋がありその後方に 3 対の山型斑がある. 腹部下面は斑紋なく淡色. 後疣の末節は基節より長い (16:10). 分布: 長崎県五島列島. Figs. 29—30 の♀は五島列島産 (タイプ標本).

11. フタバヤチグモ *Coelotes hamamurai* YAGINUMA, 1967 (Figs. 23—24)

体長 8—11mm. 後牙堤に 2 歯. 頭胸部は赤褐色で胸部はやや淡色. 腹部は灰褐色で斑紋は目立たない. 下面は黄褐色で斑紋はない. 背甲の後方の放射溝にそって毛が生えており、側方にもわずかにある. 歩脚に輪紋はない. 肉眼では背面の斑紋はウスイロヤチグモとほとんど同様である. 分布: 東北・関東・中部. Figs. 23—24 の♂♀は栃木県奥日光産 (タイプ標本).

12. カメンヤチグモ *Coelotes personatus* NISHIKAWA, 1973 (Figs. 25—26)

体長 9—15mm. 後牙堤に 2 歯. 色彩は前種より一般に濃い非常に淡い個体もある. 頭胸部は赤褐色. 腹部は灰褐色で不明瞭な山型斑がある. 腹部下面は黄褐色でほとんど斑紋はない. 背甲の毛はほとんど前種と同じ. 歩脚に輪紋はない. 分布: 中部・近畿・中国・四国. Figs. 25—26 の♂♀は滋賀県甲賀郡阿星山産 (タイプ標本).

13. オオアナヤチグモ *Coelotes grandivulva* YAGINUMA, 1969 (Fig. 31)

体長♀約 16mm. 後牙堤に 2 歯. 頭胸部は灰色. 腹部は暗灰色で 5 対の山型斑がある. 歩脚に輪紋はない. ♀ の *epigynum* は非常に大きい. 分布: 長崎県対馬島. Fig. 31 の♀は対馬島御岳産 (タイプ標本).

14. ウスイロヤチグモ *Coelotes decolor* NISHIKAWA, 1973 (Figs. 27—28)

体長 7—11mm. 後牙堤に2歯. 色彩はフタバヤチグモに似るが、より淡色で、背甲の毛も前2種に似るが、中窩の前方の両側には毛が少なく、腹部は淡い黄褐色で斑紋はなく、下面はさらに淡色である。歩脚に輪紋はない。分布：中部・近畿・中国・四国。Figs. 27—28 の♂♀は兵庫県氷上郡穴裏峠産（タイプ標本）。

15. クルマヤチグモ *Coelotes curtus* (BÖSENBERG et STRAND, 1906) (Fig. 32)

BÖSENBERG und STRAND (1906) により *Tegenaria curta* として記載された種であるが、原記載以来採集記録がない（八木沼, 1971）。

体長 6.5mm. 前列眼は直線で4眼同大等距離で眼の半径隔たる。第4歩脚附節の両側に強大なる剛刺あり。頭黄胸部黄褐色、腹部は黄色で褐灰色斑紋あり、下面には灰褐斑点あり（本種の記載は斉藤（1941）の一部を引用）。分布：九州？ Fig. 32 の♀は産地不詳（タイプ標本）。

16. カタチガイヤチグモ *Coelotes ignotus* (BÖSENBERG et STRAND, 1906) (Fig. 33)

本種も前種と同様に、*Agelena ignota* として記載された種であるが、原記載以来採集記録がない（八木沼 1971）。

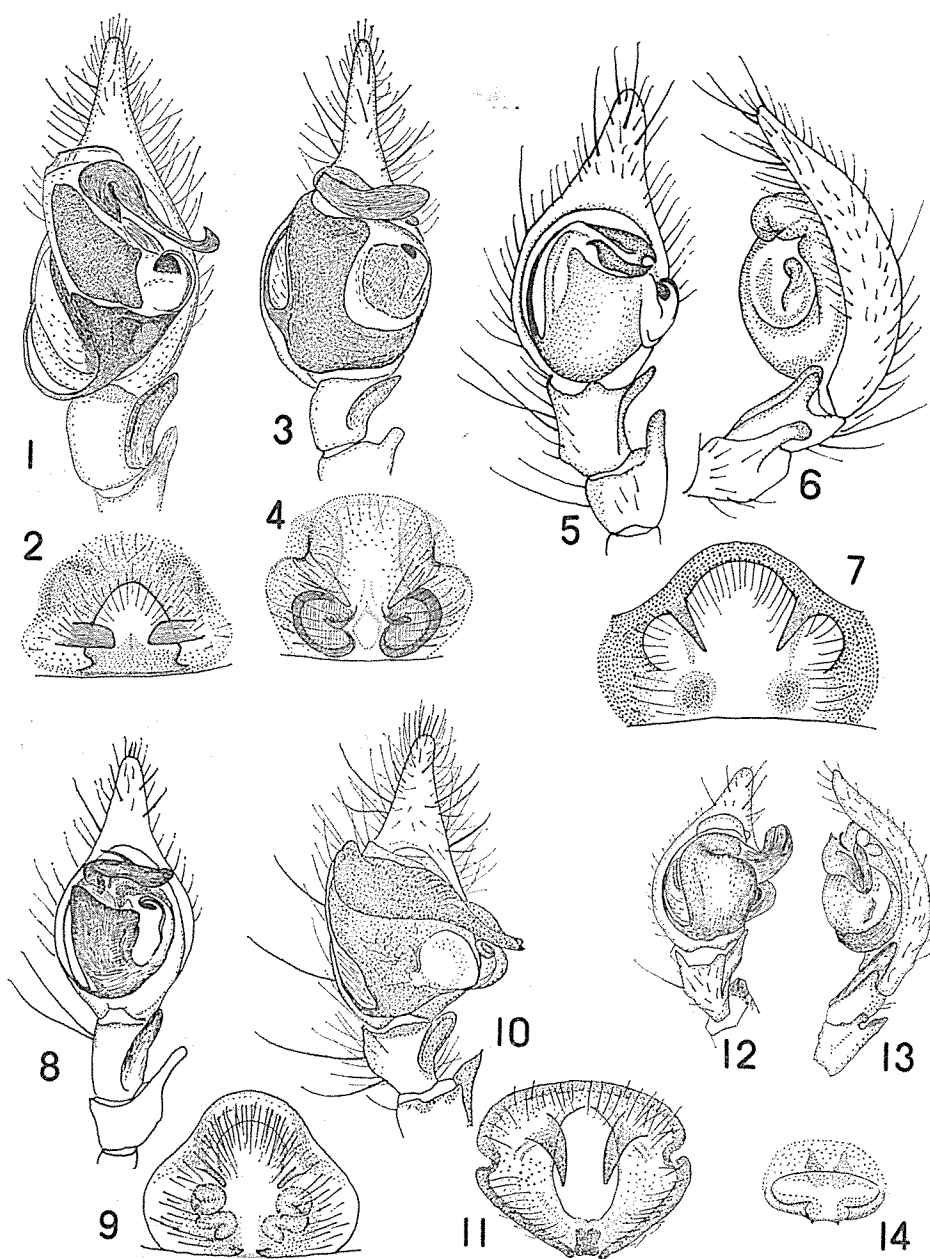
体長 8mm. 後牙堤に3歯。頭胸部汚濁せる黄褐色、腹部は褐色にして黒色斑点を有し、正中線に淡き山型斑の1列あり、下面は淡褐色にして中部と側部に僅少の黒色斑点を有す。眼は前曲する2列にならび前中眼は他の相等しい6眼より著しく小なり（本種の記載は斉藤（1941）の一部を引用）。分布：九州？ Fig. 33 の♀は産地不詳（タイプ標本）。

以上16種のほか、LEHTINEN (1967) はウロタナグモ *Urobia hexommata* KOMATSU, 1957 を *Coelotes* とし、*C. micado* を *C. spinivulva* SIMON, 1880 のシノニムにしているが、これらについては今後の研究にまきたい。

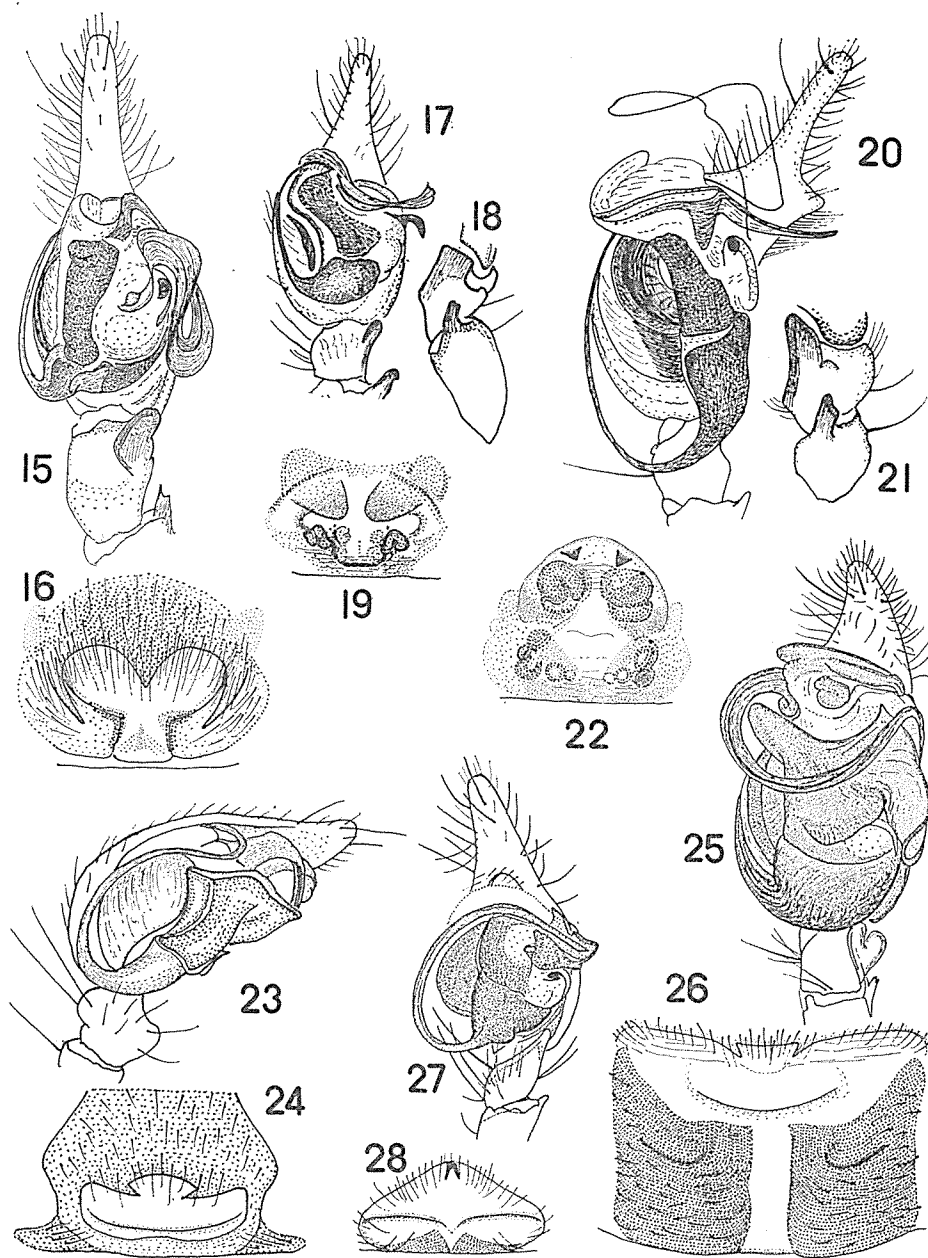
今 後 の 問 題

わが国のタナグモ科のヤチグモ属 (*Coelotes*) の既知の16種について、おもな特徴と生殖器の部分図を示した。しかし、今後かなりの新種がでてくることが予想されるが、本報告がいくらかでも分類や同定の資料となれば幸いである。

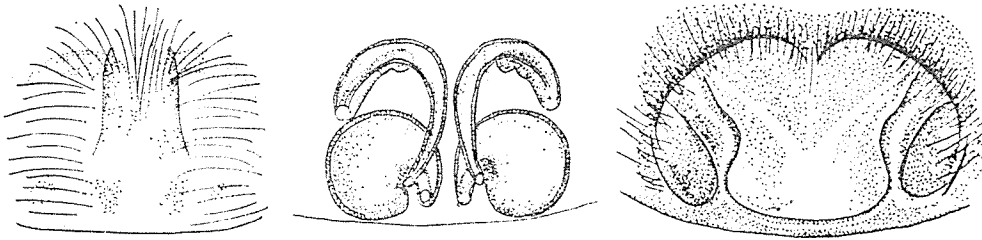
本属については LEHTINEN や八木沼により相当検討をされているが、さらに、近属の *Tegenaria* や *Coras* などの類縁関係についても比較検討をしたいと思っている。また、本報告ではおもに形態的特徴について述べたが、生態や細胞学的な見地からも比較研究をおこなうことが必要であろう。なかでも興味深いのは、洞穴種などにみられるような隔離による種の分化がみられることで、クライン・個体変異・進化系統・すみわけなどの問題について、さらに多くの標本により研究を続けてゆきたい。



Figs. 1—2. *Coelotes exitialis*.—1. male palp.—2. epigynum. Figs. 3—4. *C. antri*.—3. male palp.—4. epigynum. Figs. 5—7. *C. micado* (八木沼, 1972 c より). —5—6. male palp.—7. epigynum. Figs. 8—9. *C. kitazawai* (YAGINUMA, 1972 a より). —8. male palp.—9. epigynum. Figs. 10—11. *C. yaginumai* (西川, 1972 より). —10. male palp.—11. epigynum. Figs. 12—14. *C. inabaensis* (ARITA, 1974 より). —12—13. male palp.—14. epigynum.



Figs. 15—16. *Coelotes luctuosus*.—15. male palp.—16. epigynum. Figs. 17—19. *C. modestus*.—17—18. male palp and it's patella and tibia.—19. epigynum. Figs. 20—22. *C. insidiosus*.—20—21. male palp and it's patella and tibia.—22. epigynum. Figs. 23—24. *C. hamamurai* (八木沼, 1967より).—23. male palp.—24. epigynum. Figs. 25—26. *C. personatus* (西川, 1973より). —25. male palp.—26. epigynum. Figs. 27—28. *C. decolor* (西川, 1973より). —27. malp palp.—28. epigynum.



29

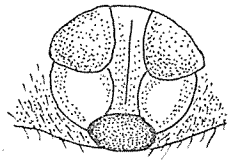
30

31

Figs. 29—30. *Coelotes uenoi* (YAMAGUCHI and YAGINUMA, 1971より) . —29. epigynum.
—30. female genitalia. Fig. 31. *C. grandivulva*, epigynum (八木沼, 1969より) .



32



33

Fig. 32. *Coelotes curtus*, epigynum (BÖSENBERG und STRAND, 1906より) . Fig. 33. *C. ignotus*, epigynum (BÖSENBERG und STRAND, 1906より) .

参 考 文 献

分布資料として使用した多数の文献は割愛し、主として分類関係の文献をかかげる。

- 1) ARITA, T. (1974) : A new species of *Coelotes* (Araneae: Agelenidae) from Tottori Prefecture, Japan. *Acta arachnol.*, 25 : 41—43.
- 2) BÖSENBERG, W. und E. STRAND (1906) : Japanische Spinnen. *Abh. Senck. naturf. Ges.*, 30 : 93—442, pls. 3—16.
- 3) 岸田久吉 (1955) : タナグモ科総説. *Acta arachnol.*, 14 : 1—13.
- 4) KOCH, L. (1878) : Japanische Arachniden und Myriapoden. *Verh. zool. bot. Ges. Wien*, 27 : 735—798, pls. 15—16.
- 5) KOMATSU, T. (1957) : Some new cave spiders in Japan. *Acta arachnol.*, 14 : 67—73.
- 6) ————— (1961) : Cave spiders of Japan, their taxonomy, chorology and ecology. pp. 1—91, pls. 1—10, *Arach. Soc. East Asia*, Osaka.
- 7) LEHTINEN, P. T. (1967) : Classification of the cribellate spiders and some allied families, with notes on the evolution of the suborder Araneomorpha. *Ann. zool. Fenn.*, 4 : 199—468.
- 8) 西川喜朗 (1972) : 大府府北部廃坑の蛛形類. *追大文紀*, (6) : 95—102.
- 9) 西川喜朗・川中陽平 (1973) : 蒜山(岡山県)の真正蜘蛛類. *蒜山の生物調査報告*, pp. 207—243. 追手門学院大学生物学研究会, 大阪.
- 10) ————— (1973) : 日本産 *Coelotes* (ヤチグモ属) の2新種. *追大文紀*, (7) : 75—81.

- 11) 西川喜朗 (1975) : シモフリヤチグモおよびヤマヤチグモとその近縁種. *Atypus* (63) (印刷中)
- 12) PAIK, K. Y., YAGINUMA, T. and J. NAMKUNG (1969) : Results of the speleological survey in South Korea 1966. XIX. Cave-dwelling spiders from the southern part of Korea. *Bull. Natn. Sci. Mus. Tokyo*, 12 : 795—844.
- 13) PAIK, K. Y. (1971) : Supplemental description of *Coelotes songminjae*. *Educat. J. Teachers Coll., Kyungpook Univ.*, 13 : 171—175.
- 14) ROEWER, C. Fr. (1954) : 32. Fam. Agelenidae. *Katalog der Araneae*, 2a : 35—99.
- 15) 斎藤三郎 (1941) : 5. 草蜘蛛科. 真正蜘蛛目 II (新疣亜目・四氣門類三爪類 1) . *日本動物分類*, 9 (2—2) : 27—61.
- 16) SIMON, E. (1880) : Études arachnologiques II^e mémoire. XVII. Arachnides recueillis aux environs de Pékin par M. V. COLLIN DE PLANCY. *Ann. Soc. ent. France*, (5), 10 : 97—128, pls. 3.
- 17) 新海栄一 (1969) 東京都産真正蜘蛛類. pp. 1—65, pls. 1—10. 東亜蜘蛛学会, 大阪.
- 18) STRAND, E. (1907) : Vorläufige Diagnosen süd- und ostasiatischer Clubioniden, Ageleniden, Pisauriden, Lycosiden, Oxyopiden und Salticiden. *Zool. anz.*, 31 : 558—570.
- 19) 植村利夫 (1936) : 神奈川県大山にヤチグモを産す. *Acta arachnol.*, 1 : 10—12.
- 20) ————— (1937) : 蜘蛛の近似種を簡単に見分ける方法 (1). *Acta arachnol.*, 2 : 55—64.
- 21) 八木沼健夫 (1957) : *Coras luctuosus* と *Tegenaria corasides*. *Atypus*, (13) : 17—19.
- 22) ————— (1958 a) : オオヤチグモ (ミカドヤチグモ) の学名. *Atypus*, (15) : 17.
- 23) ————— (1958 b) : 日本産真正蜘蛛類概説(7). *Atypus*, (17) : 9—17.
- 24) ————— (1960, 1968) : 原色日本蜘蛛類大図鑑. pp. 1—197, pls. 1—56. 保育社, 大阪.
- 25) ————— (1961) : 日本産真正蜘蛛類の科・属・種の検討. pp. 1—45. 東亜蜘蛛学会, 大阪.
- 26) ————— (1967) : 日本産真正蜘蛛類の検討・追加ならびに 7 新種の記載. *追大文紀*, (1) : 87—107.
- 27) ————— (1969) : 対馬産真正蜘蛛類. *国立科博専報*, (2) : 79—92.
- 28) ————— (1970) : 日本の真正蜘蛛類相. *国立科博研報*, 13 : 639—701.
- 29) ————— (1971) : 日本の真正蜘蛛類相(II). *追大文紀*, (5) : 161—175.
- 30) YAGINUMA, T. (1972 a) : The fauna of the lava caves around Mt. Fuji-san IX. *Araneae* (Arachnida). *Bull. Natn. Sci. Mus. Tokyo*, 15 : 267—334.
- 31) 八木沼健夫 (1972 b) : メガネヤチグモとヤマヤチグモ. *Atypus*, (58) : 45—47.
- 32) ————— (1972 c) : ミカドヤチグモ (*Coelotes micado*) の正体. *Atypus*, (59) : 1—5.
- 33) ————— (1973 a) : ヤチグモとホラズミヤチグモの雄. *Atypus*, (61) : 25—26.
- 34) ————— (1973 b) : 日本の真正蜘蛛類相(III). *追大文紀*, (7) : 69—74.
- 35) YAMAGUCHI, T. and T. YAGINUMA (1971) : The fauna of the insular lava caves in West Japan VIII. *Araneae* (part 2) . *Bull. Natn. Sci. Mus. Tokyo*, 14 : 71—80.